

第2回京丹波町総合計画審議会

会議概要

日 時 平成27年8月25日（火） 午後1時30分～4時10分

場 所 京丹波町役場 議場

出席委員

1 開会

会 長：本審議会も5月27日に第1回を開催後、それぞれ部会で2回にわたって検討いただいた。その意見を踏まえて、今後の人口展望や戦略的な事業の内容について案を作成する段階に入ってきた。来年度見直しになる次期総合計画の主要な柱として今年度全国的に取り組みられている地域創生戦略策定に向けた、審議をお願いしている。

地域創生戦略では、将来的な人口を見据える中で、地域の特性、強みを生かした施策や事業を確実に進めていくことが非常に大事だと考えている。特に、今後は人口が右肩下がりになると見込まれる中でどういう風に考えていくか、人口ビジョン見据えた戦略になることが非常に大切であると考えている。

そういった中、中間案を審議いただいて、最終的な取りまとめにつなげていきたいと考えているので、積極的に意見を出していただきたい。

また、宗田先生にも来ていただいているので、アドバイスをいただく中で、進めていきたい。特に、京都縦貫自動車道が開通して脚光を浴びている京丹波町だが、将来展望ということで意義ある会議になるよう忌憚のない意見を期待している。

2 京丹波町人口ビジョン

事務局から京丹波町人口ビジョン（中間案）を説明

宗田アドバイザー：

誤解のないように言いますが、これはシミュレーションだけです。計画でもなんでもない。この数字を仮に入れてみるとこうなるというもの。そうなる見込みは全くない。出生率に関していうと、戦後70年間出生率を上げようとしてきた結果がこの数値。だから、とんでもない革命でも起こらないかぎり2.07なんてことはない。さまざまなレベルでもいろいろ言われるが、どれもその出生率の回復に効果があるものはありません。もう70年やって効果がない。今も知恵がない。これは、上がらないということ。希望はいい。人口ビジョンの一番厳しい場合、これも産んでくださる人たちの人口が減ってきますから非常に厳しいわけで、京丹波町で生んでいただけるのか、町外で産むのか、この大きなことも区別する必要がある。次のページの生産年齢人口の趨勢があります。これは京都府全体でそうだが、生産年齢

人口が減少局面に入り人手不足が激しい。もう生産年齢人口が減少に転じて20年。今工場を誘致しても、今操業している工場の手手が足りなくなる。ついこの間まで失業率が高かったのに、失業率を下げるためにがんばっていたのが全く逆転して、今本当に人手不足が厳しい状況。この京丹波町でもせっかく来ていただいている製造業の人たちも雇用に苦労していて、従業員も町外から通勤しているというのもそう。地域内で雇用を確保できないので、京都市内や東京まで行って求人して人を集めている状況が起こっている。そのくらい生産年齢人口の減少は厳しい。もうひとつ、シミュレーションの中に社会増というのがありますが、この社会増をこの地域でどう増やしていくか、雇いをどう確保するか、非常に厳しいものがある。人口ビジョンを立てていただくのは結構ですが、そのために何ができるかということ、地域創生を進める際には、自らが暮らす地域の問題を自らのことと考えというふうに言われているが、そうそう知恵はない。いい知恵があればすぐに取り合いになってどこでもいいって話になる。京丹波町だけということにはならない。京都府全体、全国で減っているという状況の中で、いかにこの数字に近づけるかという策を練るかということになるので、皆さんもこの人口ビジョンを見て安心することのないようにくれぐれもお願いしたい。

会 長：目標ということでビジョンとされていますが、何か事務局からありますか。

事務局：宗田先生が言われたことは、説明の中で加えればよかったと思っている。国の地域創生の中のひとつの考え方の指標で、いわゆる趨勢人口という何もしなければこう減少していくという部分で、このシミュレーションを行ったので、先生の発言を次の戦略につなげていくものとして活用していきたいと考えている。

委員から特に意見はなし。

3 京丹波町創生戦略（中間案）について

会 長：それでは、宗田先生からもあったように、ビジョンを踏まえて戦略というのが大事になるということで、創生戦略中間案について、事務局のほうから説明を願う。

これは、各部会でご意見をいただいたものを反映した中で、事務局のほうでまとめたものなので、経過も踏まえて願います。

事務局から審議会部会における意見・提言取りまとめについて説明

委 員：図書館の整備についてですが、京丹波町に決定的にないもの、おそらく多くの市町村にあって当然なのに、町内に欠けているものは図書館。図書館＝本があるところという風に考えていただきたくない。例えば、ホールを一緒に備えた映画鑑賞や音楽鑑賞ができる、講演会ができる、そういったホールを兼ね備えた、さらに、図書館もある文化的な香りのするものがないというのは、すごく不思議に思っていた。皆さんはその点についてどのようなご意見をお持ちか。聞かせてほしい。

委 員：図書館を通した子育てを経験してきた者にとっては、図書館はなくてはならないも

の。ただ本があるだけでなく、そこに集まる人たちとの交流、文化的な環境の中で子育てができる、これからの基本方針としてそういった施設の項目を入れてほしいと心から思っている。ハコモノを作りたいというのとは違うと考えていただきたい。

宗田アドバイザー

今、図書館の話が出ました。当然図書館も行政がやっているわけですが、もっと減るのは、公民館の利用者、小中学校の利用者である。人口ビジョンの小中学生の数を見てほしい。

これをどう見るかにもよるが、人口で見ると、今から10年たった2025年は、583人という数字が出ている。これは、現在1学年町全体で105人いる小中学生が、10年後には65人になる数字。それが、26.5人までいく。小中学校の教室は膨大に余る。京丹波町では、2015年から高齢者の減少も始まっている。だから、高齢者の問題ではなく絶対数の問題であるということ。その中で、これだけある施設をどう使っていくか。地域の皆さんがもうちょっと文化活動できるような、特に子育てしやすいようなスペースとして、小学校にある図書が、地域から本がなくなることほったいない。だから、小中学校の図書室と公民館が一緒になったような活用ができないか、いままで小学校、図書館、公民館のように分かれて使っていたようなものを上手に統合して、地域の視点に立ってうまく活用していくのが一番と思う。事例もある。

委員：決して新しい建物がほしいとかではない。京丹波町に図書館的、文化的施設、町民が活発に活動できる場所がほしいという要望でした。

会長：宗田先生の話にあったように、人口の流入の促進と人口流出の抑制ということが今後の進めていく上で大事な点と思う。そういった意味で図書館も宗田先生からあった公共施設の有効活用も含めて戦略で検討していかれたらと思う。

それから、空き家の問題が各部会にわたっていたので、これについてはどうですか。

委員：他府県からこの町に来て暮らす人たちと話す機会があつて聞いたのだが、区の制度というのがよく理解できないらしい。いきさつはわからないが、区に入れなかった（入らなかった）、どちらが悪いとかいう問題ではない。区に入らないと何が起こるかというゴミが出せないという。驚いたが、ゴミ置き場の当番をしていないので出すことがはばかれるようだ。こそこそとゴミを出すか、衛生管理組合までゴミを出しにいつているという人もいる。

道作りもそう。自分たちは参加したくないというわけではない。気持ちよく参加して道を作っていきたいが、情報をもらえないから参加できない。で、参加していないのにお前らこの道を通るのかと試みられているのではないかと思うとどうしても壁を作ってしまふ。だから何年たってもよそ者と言ってしまふ。10年以上住んでいてもよそ者とこりかたまっている。そういう風に考えている人もあるとい

うことを知っていてほしい。

宗田アドバイザー

全国共通の問題なので驚かない話。特に、マンション住民と昔からの住民との間で起こる。私も最初、丹波町と瑞穂町に来たときに区費が高いのに驚いたが、自治会費で何をしているか、どういうサービスを地域の人に担っているかがわかれば高くない。

一般的にいうと自治会のしおりみたいなものを作って説明している所がある。わかりやすく説明をしないと、みんな悪い癖で自分の経験だけが全国共通だと思っているので、新しい方も迎える方も理解しないといけない。それでもマンション住民の方は町内会に入りたくない人もいる。このまちで新住民が増えてくる傾向があるのなら、町が京丹波町での暮らしの手引きのようなものを出せばいい。10年くらい住んでいたら地域の人になれるかというとなれないですよ。150年くらい住んでいたらになれるかもしれないが。

委員：区に入らない方というのは、区費が高いということだけが理由ですか。

委員：そうではない。実は私も区に入っていない。最初は入っていたが、区の会議で意見が合わずにやめた。

宗田アドバイザー

お住まいの地域で会長になる人がなくなったら、今までのことを忘れてお願いしにくるかもしれません。これから人口減少で担い手がなくなると、そんなことは言っていられなくなる。

会長：これから人口の流入を進める上ではこういう問題も出てくるのではないかと思う。道作りではないが、そこで話すことがコミュニティの場になるのではないかと思う。

会長：部会のほうで協議いただいたことの補足などをお願いしたい。

委員：総務文教のほうでは、真剣な協議をいただいたのですが、今も出ていました空き家の問題、地域の問題について、部会で出ている意見を紹介した。

各地域の取り組み、成り立ちについては、行政が入り込んで地域の成り立ちなどをしぼるものではない。あくまでも住む人が地域の人と良好な関係を醸成されて住んでいただくというのが、本来ではないかと意見が出ていた。地域でも若い人がいるんな地域が抱える問題を解決していこうとしているので、辛抱強く双方が納得できる点を目指して意見を出していければと思う。

行政職員として地域に入って調整するのではなくて、それぞれの地域の中で、Iターン者と地域を結ぶ役割の人を作って、細かい個別の事情やそれぞれの地域のしきり、また、発生する義務、そのあたりを説明してもらうことが必要ではないかと意見が出た。

委員：産業建設部会では、移住の空き家対策の問題とか、畑川ダムのことについて意見が

出ていた。空き家の情報をもっと積極的に町が発信していかないといけないと感じた。知り合いと一緒に空き家探しをしたことがあるが、他県では移住したいと問い合わせると積極的に電話がかかってきて案内があった。担当を置いてやられたほうがいい。今のままではいけないと思う。

他には、グラウンドゴルフ場を作るという計画があるらしいが、芝生の管理に農薬を使うので水のことで危険ではないかと意見が出た。

委員：畑川ダム周辺整備については、多目的に使用できるようにすると使い道も増えるという意見が出た。

委員：福祉厚生部会では、ほとんどが先ほどから出た。計画に出ている、部署がまたがっていたりするので、縦割りを改めたらいろいろ進めていけるのではないかと考えた。京丹波町を出たことがないので図書館がないことをあまり考える機会がなかった。入って来られた方の目は鋭くて、掘り下げていければいいと思う。先生が言われたように柔軟な発想を持っていけたらと思う。

会長：それぞれ部会の様子も報告いただいた。次に戦略についての事務局からの説明をお願いします。

事務局から資料にもとづき創生戦略の説明

委員：非常にインパクトのあるフレーズだと思ったのが、人口ビジョンに「自ら行動する主体的なプレーヤーが不可欠」とあり、自ら行動する者が必要なのかなと思っていたのだが、戦略にはなかった。創生戦略にどこかで盛り込んでもらえないかなと思っていた。

会長：ここにある戦略等については、行政だけでは厳しいので、どこかで加えていきたいと思う。

委員：自給自足的循環社会というのは、説明を聞けばわかるが、何か分かりやすいもののほうがよいのではないか。行政用語的なので何かないかと思った。国の何かの言葉か。

事務局：これは京丹波町独自のもの。

委員：パブリックコメントを行うので意見も出るかもしれない。

事務局：いわゆる地産地消、里山再生、地域包括ケアというような話をさせていただいたが、そういった考え方に対する基本的な理念として、安心づくりということに結び付けている。それを京丹波町では少しずつアレンジしていく中で、安心づくりを進めていくこととしている。これをひとつの基本的な考え方のトップに据えたいと思い自給自足的と表現している。自給自足という内面だけでなく、外に発信していくという意味も含めて「自給自足的」と表現しています。

宗田アドバイザー

この自給自足という言葉が地方創生でよく出てくるようになったのは、産業連関のことで高知県を分析した研究があり、里山資本主義でよく出てくること。京丹波

町の経済を見ると、一番大きいのは公共事業であり、製造業も稼いでいるが年金も相当入ってきている。問題はそのお金がどう使われるかということで、どうも外に吸収されて循環していない。それをできるだけ地域にお金が落ちるようにしましょうということ。マックスでも、スーパーが入っていて、外から仕入れたものを消費することで外にお金を支払っている。町内で作った野菜、米をできるだけまわしてもらおう。町内で木質バイオマスのエネルギーを作ろうとしているが、電気も買わずに町内でつくれば買わなくてすむ。地域経済を外で買わなくてすむような構造にしましょうねということ。製造業で町内の人を雇い、その人に家賃を払い、固定資産税を払い、その人に買ってもらう。できれば高齢になったら町内の人に世話してもらうことでお金を払ってもらい、子どもを町内の学習塾に通ってもらうようにする。地域の中の仕事を作っていくことをして、みんなでがんばりましょうねということをお願いしたい。

だから、自給自足というのは、昔の自給自足に戻るみたいに聞こえるが、地域内循環ということを行っているわけですね。

委員：より住民の方にわかっていたくために、例えばサブタイトルをつけるなどしていただければわかりやすいのではないかと。趣旨がうまく伝われば、以下は分かる。せっかく今回、若い人も入っていただいているので、よりわかりやすい、いいものができればいいと思う。

事務局：サブタイトルという意味では、「日本のふるさと。」というのを入れている。自給自足的という考え方を先ほど説明したように、最終的にいろんな時代にあったものに変えていくという中で安心づくりをしていくと。宗田先生からあったようなことも含めてここで自給自足的という言葉を使っているのだから、ふるさとというところに安心をつなげてサブタイトルを入れている。今の意見を伺う中で、パブリックコメントでご意見を賜っていきたく思っているのだから、京丹波町としては「自給自足的」ということにこだわっていきたく思っています。

委員：人口ビジョンを見て、本来なら希望を持ってということになるのだろうが、非常にショック。しかし、これが現実なので受け止めないといけない。先ほど出た自治会の問題もそういうことがあるのかと思って聞いていた。古き良き伝統が、町外から来られた人たちにとって排他的にならない工夫をしていかないといけないと思った。まちづくりはひとづくりという思いをあらたにした。

委員：空き家対策の話が出たが、農業の関係でも、新規就農でも空き家を確保して農村の後継者に貸し付けるというのがあちこちでされている。ケーブルテレビで、和知で土地を分譲するという放送をしている。外部から人を呼ぶ場合、農地付きの宅地というのがあったらいいと思う。例えば、町が農地を一旦借り受けて貸付できれば、もっと楽しい週末を楽しめるようなことができるのではないかと。別荘として週末に来られる方や、工芸をする人などいろいろいるが、働き盛りの人

を呼ぶことは難しい。空き家に来る人は70歳以上。申請した数年後に来られないので家と草だけが残ることがある。若い人を呼ぶためには、夢を持てるような住宅地や農地の貸付をしてもらえればと思う。

結婚の話だが、10数件仲人をしてきたが、子どもに見合いをけしかけると迷惑だといわれた。自分で勇気を出して相手を見つけるという人が難しい人もいると思うので、そういうおせっかい屋が出て行ってもいいのではないか。わたしも機会があればそういう場に出て世話してあげたいと思っている。

委員：これまで、どうしても閉鎖的な集落だったのを、地縁による団体を組織した。これからのこの集落で自治会を守っていくためには、人材が必要ということで、開かれた組織にしていこうという目的で規約を変えた。空き家のこともですし、総合戦略の中にあつた自給自足の循環社会ということで、地域の良さを知っている、ゆかりのある方の力は将来にわたっても必要だろうと思う。ふるさと納税の話もあるが、そういう人たちは、京丹波の良さをPRしてもらい、支援してもらう大きな戦力と思っている。そういうあたりの記述があればと思う。

委員：資料に長老ヶ岳の活用と挙がっているが、どういう意味か。

事務局：仕事づくりのところであげているが、これは国定公園化に向けた活用という意味。

仕事づくりという意味では、農家民泊の設置も含めて戦略の事業にはあげている。

委員：空き家の活用というと、外から来る人のための空き家と思われがちだが、地区の中で中心地に空き家ができると、同じ地域の中で離れた所にくらしている人に引っ越してもらったらどうかという話が部会で出た。30年、40年のビジョンで一つの所にまとまっていくということは、交通面とか買い物面とか全てのことを含めて大事だと思う。

1軒だけ離れてあるよりも、みんながかたまつて暮らすほうが見守りもできるしいいと思う。地域の中で空き家を活用するというのもひとつの策じゃないかと思う。

委員：皆さんの話を聞き、自分も何かしないといけないと考えさせられた。

図書館のことが出て、福祉の部会でもその件でいろいろ話をした。図書館に限らず、今、空いている施設とかを利用して子どもが自由に遊べたり本を読めたり、お母さんたちのコミュニティづくりの場になるような場があればいいと思う。京丹波町にも子育て支援センターがあるが、もう少し充実すればいいと思って部会でも話していた。

蒲生野にもこもこ文庫というところがあるが、そこには、本もあるし、ジュータンが敷いてあつて遊べるところがある。あと、畳の部屋があつて、公民館としての利用がメインだが、住民の人が年代を問わずに利用されていると聞いてそういう施設もよいなと思っている。

委員：さきほどから出ている空き家の問題。身内の他界により空き家をどうするかとなつ

た。宗教事を解決しないと誰かに貸すということは難しいのではないかと思った。京都市内だとホテルでしている。

あと、図書館の問題だが、役場にしてもそうだが、皆さん必要と思っている。いつからかハコモノを建てることに対して踏み込めなくなった体質があると思う。お金のことも問題。そこが理解いただければ図書館であろうが、ホールであろうができると思う。中央公民館では少しお粗末だと思う。

委員：京丹波町にいいものがたくさんあると思う。特に食というところでは、外に向けてPRできるものがあると思う。外に向けて販路を拡大したいと考える企業さんもある。また、京丹波のクリは有名なので、仕入れるとかそういう話がある。何らかの形で京丹波に関心をもっていただけるようにお手伝いができればと思う。

会長：ありがとうございます。十分とはいえないかもしれないかもしれないが、出してもらった。創生戦略の中間案として今の意見を踏まえていただいて会長・副会長で調整してこれを中間案ということにしていきたい。

最終はまた協議するので、進めさせていただきたいのでご了解いただきたい。

宗田アドバイザー

これでは全然満足していない。この種の案というのは、これから子育てをするために移り住みたい、高齢でも京丹波町ですごしたい、今は出ているけどUターンで戻ってきたという人たちに対して、町が10年後こうなる、20年後こうなるという町の約束。だから、小学校がどうなる、病院はどうなる、図書館、公民館はどうなるという公共サービスを町が責任を持ってここまでは維持するということを言ってもらわないと困る。それでないと不安だらけで住めない。小学校どうするのですか。何の案も出ていない。これから全町で1クラスの時代が10年後にくるはず。小中学校の整備や高校の問題がある。その状況で、ここで子育てしていくことは不安だらけ。そこをどう約束するかということを役場は責任持って示さないといけない。

もうひとつ、空き家の問題と宗教事の問題。仏教では、仏壇のおたき上げとあって、仏壇のために家を残すのはよそうと。お寺で仏壇を引き取ってたき上げる。位牌はお寺で管理するから家は残さずにお寺に預ける。ホテルに泊まって仏事を済ます。そういう仕方とかがある。

あと、農地付きで住んでもらうということは、京都から1時間で京丹波町に来られることからすると、ここに住む需要は絶対ある。それを町がどれほどお世話するか。空き家に関しても他県の話も出たが、空き家の世話をする、移住の世話をしているということが生まれ、全国の自治体ではそういう取り組みもある。新しく住む若い人たちに20年後、30年後住んでいただくための積極的な売りをする、当然守りとして町としてここまでのサービスは絶対するからと約束して住んでいただくことを示さないといけないと思う。そのために、町外に買いにいかずに町内で買

い物してもらって、さらに訪問販売して買い物難民問題を解決する。そのための力をつけるために応援しないといけませんよとなる。皆さんの協力を得て、こういう形で生活を維持していく。町民の皆さん、役場はここまでするから協力してくださいと戦略に書く。ここに書いてあることは具体的に見えるが、絵に描いた将来構想みたいなものではしょうがない。もっと練りましょう。

会 長：厳しいご指摘。たしかにおっしゃるとおり。前の総合計画の10年見直しということでおっしゃったのかもしれない。空き家の関係は京丹波でもおたきあげ、永代供養ということで、されている方もある。

具体的にということで、一方でひとつの流れというものもあるので、ご指摘いただいたようなアドバイスもいただきながら中間案をつくるということで、中間案を出したら終わりということではないので、最終的に完成させていくということで、理念も含まれていると思うので、そういうまとめ方をしたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

4 次回の審議会について

事務局から次回スケジュールの説明

5 閉会

事務局：議事にはないが、内部でも総合計画委員会を設けている。その委員会の委員長でもある畠中副町長からあいさつ。

畠中副町長

長時間真剣な議論をお礼申し上げる。人口ビジョンをみた場合、厳しいというのが印象。宗田先生が言われるように、至難の業より高いレベルだと思う。しかし、行政の目標として設定する必要があると思う。目標をしっかりと見据えていく必要があると思う。

住民にわかりやく目標数値も含めてしっかりと説明しなければなかなか将来見通せないよという宗田先生の指摘もあった、そういった部分も戦略を立てていくときにアドバイスを願ひしたい。

空き家対策でも、町長と語るつどいでも空き家の問題は出る。しかし、利用していただくようにするにはどうすればいいか、なかなか役場では踏み込んだ利用者の立場に立った心理的な分析などができているかというとなかなかできていないなと認識した。それと、実際入っていただいた方を受け入れるとき、既存の社会がいかに受け入れるかというところ、心のありようというところをもっと分析していかないと人口増というのはなかなか生まれないですよと行政側が住民の皆さんにお知らせしないという思いもある。人間社会は1人、2人では生きられない。入ってきた人も受け入れるほうも新しい方法論を模索していく必要があると思っ

る。そのところがしっかりしていけないと居心地がいい、住み心地がいいまちにはなりえない。そうでないとなかなか受け入れることはできない。夢と希望を持ってきた人は孤立感を持つばかり。これでは溝を深めるばかり。融和部分について、しっかりと行政も分析し、施策を講じなければならないと思う。

今後、私はこの人口を増やすためには、ビジョンの中で皆さん方が京丹波町はあそこに行ったら私たちのふるさととして素晴らしいまちだなという打ち出し方をしているので、安心して居心地のいい、住み心地のいいまちだと認識してもらえるような施策を出していけないと思っている。

図書館の問題ですが、非常に重大な問題だと個人的には思っている。しかし、立派なハコモノを作って打ち出すほうがいいのか、子どもたちにもっと読書の習慣付けをして、既存の公共施設を使ったほうがいいのか、これからしっかりと議論しないといけないと思っている。いろんなところで民間の方に活躍してもらっている。本を読む習慣付けをもっともっと展開していけないと思うし、その上に立った施策を展開しないといけないと思う。個人的に本の読み聞かせをするということは重要と考えている。子どもたちは、学力は向上しているが基礎部分、本を読む部分は不足している。表現力がまずいと思っている、しっかりと本を読む習慣をつけることは大事だと思うので、これからの行政に活かしていきたい。やることは山ほどある。皆さん方の知恵をお借りしていきたい。

副会長：今日はありがとう。皆さんの目標とされるところは同じなので、それに向かって危機感を持っていかないといけないと感じた。これからもよろしくお願いします。